



和歌山県串本町から得られた本州初記録を含むオオクチヌメリ属魚類 2 種の記録

大西 遼¹

Author & Article Info

¹ 串本海中公園センター（東牟婁郡串本町）
onishi@kushimoto.co.jpReceived 12 June 2025
Revised 14 June 2025
Accepted 15 June 2025
Published 18 June 2025
DOI 10.34583/ichthy.56.0_31Ryo Onishi. 2025. First records of *Eleutherochir mirabilis* and *E. mccaddeni* (Callionymidae) from Wakayama Prefecture, Japan. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 56: 31–35.

Abstract

Two callionymid species, *Eleutherochir mirabilis* (Snyder, 1911) (7.6 mm SL) and *Eleutherochir mccaddeni* Fowler, 1941 (31.9 mm SL), are newly recorded from Wakayama Prefecture, Japan. *Eleutherochir mirabilis* has been sporadically recorded from the Sea of Japan and Pacific coasts of Japan, but had not previously been recorded from Wakayama. *Eleutherochir mccaddeni* has previously been recorded only from Kochi and Okinawa prefectures in Japan; the present specimen represents the first record from Honshu of the species.

ネズボ科オオクチヌメリ属 (Callionymidae: *Eleutherochir*) は、日本からバケヌメリ *Eleutherochir mirabilis* (Snyder, 1911), クシヒゲヌメリ *Eleutherochir mccaddeni* Fowler, 1941, およびオオクチヌメリ *Eleutherochir opercularis* (Valenciennes, 1837) の 3 種が記録されている (中坊・土居内, 2013). 本属魚類は、尾鰭中央部の軟条先端が分岐すること、口が横に大きく幅広いこと、および下唇上縁に多くの小さな肉質突起があることなどにより特徴付けられる (Nakabo, 1982; 中坊・土居内, 2013; 緒方・村瀬, 2019; 津野ほか, 2023). このうちバケヌメリは、背鰭が 1 基であること、臀鰭軟条数が 12–14 であることで同属他種と識別され、クシヒゲヌメリとオオクチヌメリは下顎が上顎より突出すること (オオクチヌメリは上顎が突出する)、両眼間隔が眼径より狭いこと (眼径より広い)、臀鰭軟条数が 10–11 (9) であることなどにより容易に識別される (Nakabo, 1983; 吉郷ほか, 2006; 中坊・土居内, 2013; 緒方・村瀬,

2019). また、バケヌメリは国内において、北海道から新潟県と宮崎県にかけての日本海および太平洋沿岸から散発的に記録されており、クシヒゲヌメリは高知県と沖縄県からのみ記録されている (中坊・土居内, 2013; 大河ほか, 2014; 緒方・村瀬, 2019; 津野ほか, 2023).

2024 年 6 月 10 日に和歌山県串本町の紀伊大島で 1 個体のバケヌメリの稚魚、また同年 8 月 21 日に同町の上浦海岸で 1 個体のクシヒゲヌメリが採集された。今回採集された標本は和歌山県からの 2 種の初記録となり、クシヒゲヌメリは本州初記録であるため、ここに報告する。

材料と方法

計数・計測方法は Nakabo (1982) にしたがった。ただし、バケヌメリは肛門小突起が未発達であったため、本研究では計測を行っていない。本報告での学名と日本産オオクチヌメリ属魚類の分類形質は中坊・土居内 (2013) に従った。計測は実体顕微鏡の接眼マイクロメーターとデジタルノギスを用いて 0.01 mm の単位で行い、小数第 2 位は四捨五入した。標準体長 (standard length) は体長または SL と表記した。採集された標本は 10% ホルマリン溶液で固定し、70% エタノール溶液に置換して保存した。生時の体色の記載は固定前に撮影されたカラー写真 (Figs. 1, 2) に基づいて記載した。本報告に用いた標本は和歌山県立自然博物館 (WMNH) に保管されている。

Eleutherochir mirabilis (Snyder, 1911)

バケヌメリ

(Fig. 1)

標本 WMNH-PIS14274, 体長 7.6 mm, 和歌山県東牟婁郡串本町大島・大島港 (紀伊大島), 水深 0.1 m, タモ網, 2024 年 6 月 10 日 (2024 年 6 月 13 日まで飼育), 大西 遼.

記載 背鰭条数 13; 臀鰭条数 13; 胸鰭条数 $i + 17$; 腹鰭条数 $I, 5$; 尾鰭条数 $i + 7 + ii$. 体各部の体長に対する割合 (%): 腹鰭起部の体高 12.5; 頭長 27.6; 吻長 5.9; 眼径

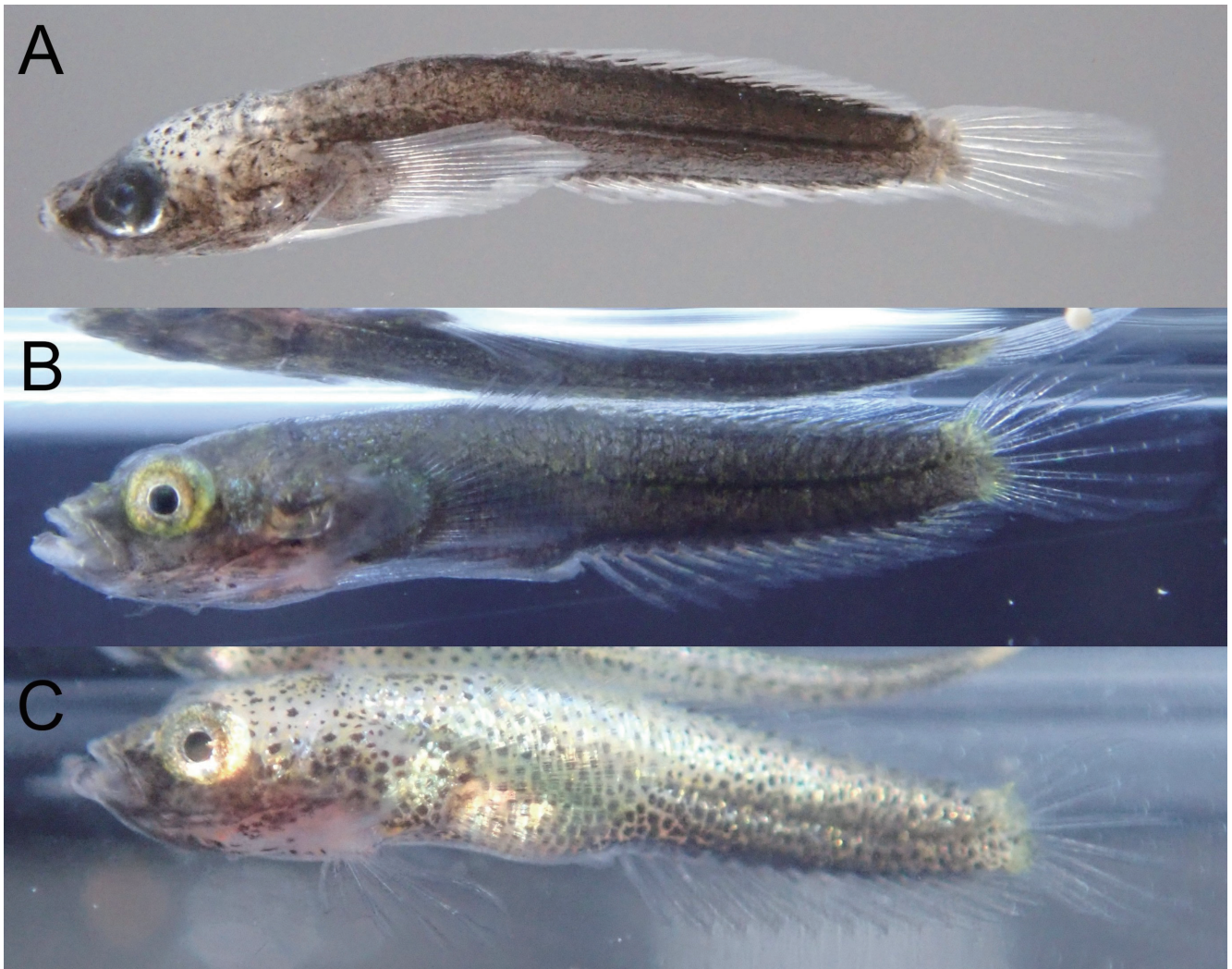


Fig. 1. *Eleutherochir mirabilis* (WMNH-PIS14274, 7.6 mm SL) from Kushimoto, Wakayama Prefecture, Japan. Preserved specimen (A) and live conditions (B, C).

8.6；両眼間隔幅 4.6；上顎長 9.2；尾柄高 7.2；尾柄長 7.9；背鰭前長 49.3；背鰭基底長 39.5；臀鰭基底長 40.1；胸鰭長 23.7；腹鰭長 23.0；尾鰭長 27.0；背鰭第 1 軟条長 13.2；背鰭最終軟条長 7.2；臀鰭第 1 軟条長 5.9；臀鰭最終軟条長 9.2；前鰓蓋骨棘長 7.9。

体は伸長し、後方に向かいやや側扁する。頭部はわずかに縦扁する。吻端は丸い。鼻孔は小さな管状で、吻中央部の上方に開孔する。眼は大きく、わずかに上方を向く。口は端位で、横に大きく幅広い。下顎先端は上顎先端よりもわずかに突出する。上顎後端は眼の前縁を越えない。両顎に微小な歯がある。前鰓蓋骨棘には前向棘が無く、基部内側の背縁に 3 棘がある。鰓蓋膜は後方に伸長し、胸鰭基底を越える。鰓孔は狭く、背面に開く。肛門は体の中央よりやや後方に開孔する。背鰭は 1 基で、棘条はなく、軟条のみで構成される。背鰭起部は肛門開口部の直上に位置する。背鰭基底後端は臀鰭基底後端よりも前方に位置する。背鰭は最終軟条を除き、すべて分岐しない。臀鰭最終軟条は基部から分岐し、他の軟条は先端から分岐する。胸鰭は長く、その後端は背鰭第 4 条直下に位置する。腹鰭起部は前鰓蓋骨棘中央付近の直下に位置する。尾鰭はやや長く、

後縁は丸みを帯びる。尾鰭の中央部の軟条は先端が分岐する。側線は 1 本で、頭部背面と尾柄部背面で両体側の側線が結合する。

色彩 生時の色彩 (Fig. 1B) — 体の地色はやや黄緑色みを帯びた乳白色。頭部から尾柄部にかけて褐色素胞と黒色素胞が密に分布し、頭部腹面と尾柄部では薄い。尾柄部と尾鰭基底は薄い黄緑色。各鰭は透明で、鰭条にそって薄く黄緑色がかかる。虹彩は黄色から薄い黄緑色で、わずかに茶褐色がかかる。

固定後の色彩 (Fig. 1A) — 体の地色は乳白色。頭部側面から尾柄部にかけて茶褐色素胞が密に分布し、頭部背面には樹枝状の茶褐色素胞が散在する。各鰭は透明で、背鰭と臀鰭は鰭条にそって茶褐色がかかる。

分布 本種は国外ではロシアのポシェット湾、中国の河北省（渤海）、韓国の全羅北道（黄海）から、国内では北海道、青森県、新潟県、茨城県、神奈川県、三重県、高知県、および宮崎県から記録されている（小林・阿部, 1962; Arai, 1971；石川, 1978; Nakabo, 1983; Fricke, 1983；工藤・山田, 2005；中坊・土居内, 2013；小嶋, 2014；大河ほか, 2014；緒方・村瀬, 2019；尼岡ほか, 2020；津野

ほか, 2023; 木村, 2025). 本研究により新たに和歌山県串本町から記録された.

備考 本標本は, 口が横に大きく幅広いこと, 背鰭が1基であること, 背鰭と臀鰭の軟条数が13と多いこと, 尾鰭中央部の軟条先端が分岐すること, および体側の褐色素胞が一様に分布することが中坊・土居内(2013), 小嶋(2014)や緒方・村瀬(2019)の示したバケヌメリ *E. mirabilis* の特徴に一致したため, 本種に同定された. ただし, 本標本は体長 7.6 mm と小型で, 採集時(夜間)は表層付近を浮遊していたことから浮遊期の稚魚と考えられ, オオクヌメリ属の特徴である下唇上縁の肉質突起が未発達の状態であった. 本種の稚魚は, 小林・阿部(1962)や小嶋(2014)により計7個体(体長 4.7–9.2 mm)が報告されているが, 肉質突起の有無は言及されていない. 本標本の観察結果から, この特徴は着底後に発現すると考えられる. また, 本種の稚魚の体色は, 小林・阿部(1962)や小嶋(2014)では体に褐色素胞は一様に分布すると報告されており, 本研究の観察標本でも同様であった(Fig. 1B). 一方, 水槽内でLED照明を10–20分間ほど照射すると, 頭部と体の色素胞が収縮し, まばらに散在する比較的大きな黒点に変化する様子が観察された(Fig. 1C). このような体色の変化は, LED照明を照射したときのみ観察された.

本種は主に外洋性沿岸の波打ち際から水深 10 m 前後の砂底に生息することが知られているが(石川, 1978; 中坊・土居内, 2013; 緒方・村瀬, 2019), 体長 6–10 mm 前後の稚魚は表層性が強いと報告されており(小嶋, 2014), 本標本(体長 7.6 mm)も漁港内で浮遊しているところを採集された. また, 本種は体長 80 mm にまで成長することが知られており(尼岡ほか, 2020), 本県と同じく南日本太平洋沿岸の神奈川県, 高知県, および宮崎県では体長 30–50 mm 程の個体が採集されていることから(工藤・山田, 2005; 緒方・村瀬, 2019; 津野ほか, 2023), 今後本県沿岸でも着底後の同サイズの標本が得られる可能性が高い.

Eleutherochir mccaddeni Fowler, 1941

クシヒゲヌメリ

(Fig. 2)

標本 WMNH-PIS14275, 体長 31.9 mm, 和歌山県東牟婁郡串本町串本・上浦海岸, 水深 0.8 m, タモ網, 2024 年 8 月 21 日, 大西 遼.

記載 背鰭条数 IV-9; 臀鰭条数 10; 胸鰭条数 $i + 19$; 腹鰭条数 I, 5; 尾鰭条数 $ii + 7 + ii$. 体各部の体長に対する割合(%): 臀鰭起部の体高 12.6; 頭長 22.3; 吻長 6.3; 眼径 7.0; 両眼間隔幅 3.1; 上顎長 7.5; 尾柄高 6.9; 尾柄長 11.9; 背鰭前長 32.9; 第1背鰭基底長 9.7, 第2背鰭基底長 33.6; 臀鰭基底長 42.1; 胸鰭長 22.3; 腹鰭長 17.6; 尾鰭

長 27.6; 第1背鰭第1棘長 9.1; 第1背鰭第2棘長 9.7; 第1背鰭第3棘長 8.8; 第1背鰭第4棘長 7.5; 第2背鰭第1軟条長 10.7; 第2背鰭最終軟条長 9.7; 臀鰭第1軟条長 9.4; 臀鰭最終軟条長 12.2; 前鰓蓋骨棘長 5.6; 肛門小突起長 1.1.

体は伸長し, 後方に向かい側扁する. 頭部は縦扁する. 吻端は丸い. 鼻孔は小さな管状で, 吻中央部よりやや後方の上方に開孔する. 眼は前後方向に長い楕円形で, 吻長よりも大きい. 口は端位で, 横に大きく幅広い. 下顎先端は上顎先端よりもわずかに突出する. 上顎後端は眼の前縁を越えない. 下唇に9対の1列に並ぶ櫛状の肉質突起があり(Fig. 2D), 下顎前方から後方に向かうに次第小さくなる. 両顎に小さな歯があり2列の歯列を形成するが, 下顎は後方で1列になる. 前鰓蓋骨棘には前向棘が無く, 基部内側の背縁に3棘がある. 鰓蓋膜は大きく後方に伸長し, 胸鰭基底を越える. 鰓孔は狭く, 背面に開く. 肛門に小突起がある. 背鰭が2基ある. 第1背鰭は小さく, 第2棘が最長. 第2背鰭起部は臀鰭起部の直上に位置する. 第2背鰭基底後端は臀鰭基底後端よりも前方に位置する. 第2背鰭は最終軟条を除き, すべて分岐しない. 臀鰭最終軟条は基部から分岐し, 他の軟条は先端から分岐する. 胸鰭は長く, その後端は第2背鰭第2軟条直下に位置する. 腹鰭起部は前鰓蓋骨棘中央付近よりもやや後方に位置する. 尾鰭はやや長く, 後縁は丸みを帯びる. 尾鰭の中央部の軟条は先端が分岐する. 側線は1本で, 頭部背面と尾柄部背面で両体側の側線が結合する.

色彩 生時および生鮮時の色彩(Fig. 2) — 体の背面の地色はやや光沢のある淡い褐色で, 黄褐色と青色がかかった灰色の虫食い模様と小斑紋が散在する. 腹面の地色は光沢のある乳白色. 第1背鰭は茶褐色で, 第2棘から第3棘の鰭膜は広く黄色がかかる. 第2背鰭は鰭条が白灰色で鰭膜が透明, 各鰭条に1–2個の小さな茶褐色斑がある. 臀鰭は鰭条が白灰色で, 鰭膜が透明. 胸鰭は透明で, 基部と鰭条がやや光沢のある薄い黄色. 腹鰭は鰭条が白灰色で, やや光沢のある薄い黄色と灰色みがかかる. 尾鰭は鰭条が白灰色で, 4本の黄褐色斜帯があり, 中央後方に白色で縁取られた黒色斑がある.

分布 本種は国外ではフィリピンのレイテ島(タイブ産地)から, 国内では高知県と沖縄県(沖縄島, 西表島)から記録されている(Fowler, 1941; 吉郷ほか, 2006; 中坊・土居内, 2013; 大河ほか, 2014). 本研究により新たに和歌山県串本町から記録された. なお, *E. mccaddeni* は, Fricke (1983)以降, 長らく *E. opercularis* の新参異名とみなされていたため, 日本国外での分布状況は情報が不足している.

備考 本標本は, 口が横に大きく幅広いこと, 下唇に肉質突起があること, 下顎が上顎よりも突出すること, 両眼間隔が眼径よりも狭いこと, 背鰭が2基で軟条数が9で



Fig. 2. *Eleutherochir mccaddeni* (WMNH-PIS14275, 31.9 mm SL) from Kushimoto, Wakayama Prefecture, Japan. Fresh specimen (A: lateral view, B: dorsal view) and live conditions (C, D).

あること、および臀鰭軟条数が 10 であることが吉郷ほか (2006) や中坊・土居内 (2013) の示したクシヒゲヌメリ *E. mccaddeni* の特徴に一致したため、本種に同定された。ただし、本標本の計測値は、吉郷ほか (2006) が報告した計測値と比較して、吻長 [本標本では体長の 6.3%, 吉郷ほか (2006) では 6.4–7.9%], 第 1 背鰭第 4 棘長 (7.5%, 7.9–8.7%), および第 2 背鰭最終軟条長 (9.7%, 11.6–12.2%) がわずかに異なるが、種内変異の範囲内であると判断した。

本種は陸水の影響を受ける砂浜海岸の水深 1 m 前後の波打ち際に生息することが知られており (吉郷ほか, 2006; 中坊・土居内, 2013), 本標本が採集された上浦海岸もわずかに陸水の影響を受ける砂浜海岸であった (Fig. 3). なお、本種は生息地環境の悪化や分布がきわめて局所的である等から、環境省版海洋生物レッドリストと沖縄県レッドデータブックで絶滅危惧 IA 類に選定されている (立原, 2017; 環境省, 2017; 木村ほか, 2018). 定着の有無を含めて和歌山県沿岸での本種の生息状況は情報が不足しているため、継続的な調査が必要である。



Fig. 3. Habitat of *Eleutherochir mccaddeni*, Kamiura Beach at Kushimoto, Wakayama Prefecture, Japan.

謝 辞

串本海中公園センターの松永康大氏、金井一祥氏、串本町在住の寺町幸音氏、寺町早紀氏には採集にご協力いただいた。和歌山県立自然博物館の平嶋健太郎氏には標本の登録を行っていただいた。以上の方々にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

引用文献

- 尼岡邦夫・仲谷一宏・矢部 衛. 2020. 北海道の魚類 全種図鑑. 北海道新聞社, 札幌. 590 pp.
- Arai, R. 1971. Record of the dragonet, *Draculo mirabilis* Snyder, from Hokkaido, Japan. Japanese Journal of Ichthyology, 18: 33–35.
- Fowler, H. W. 1941. New fishes of the family Callionymidae, mostly Philippine, obtained by the United States Bureau of Fisheries Steamer “Albatross”. Proceedings of the United States National Museum, 90: 1–31.
- Fricke, R. 1983. Revision of the Indo-Pacific genera and species of the dragonet family Callionymidae (Teleostei). Theses Zoologicae Vol. 3. Verlag Von J. Cramer, Braunschweig. x + 774 pp.
- 石川弘毅. 1978. 茨城県浅海域で採集されたバケヌメリ, *Draculo mirabilis* Snyder. 茨城県水産試験場研究報告, 22: 1–6.
- 環境省. 2017. 【魚類】海洋生物レッドリスト (2017). [URL](#) (13 June 2025)
- 木村清志. 2025. バケヌメリ, p. 181. 木村清志・笹木大地 (編) 美し国の魚たち 三重県の魚類図鑑. 木村清志, 伊勢.
- 木村清志・瀬能 宏・山口敦子・鈴木寿之・重田利拓. 2018. 海産魚類レッドリストとその課題. 魚類学雑誌, 65: 97–116.
- 小林喜雄・阿部晃治. 1962. 北海道南東海区に於ける潮境の幼稚魚. 北海道大学水産科学研究彙報, 13: 165–179.
- 小嶋純一. 2014. ネズッポ科, pp. 1208–1214. 沖山宗雄 (編) 日本産稚魚図鑑. 第2版. 東海大学出版会, 秦野.
- 工藤孝治・山田和彦. 2005. 三浦半島南西部沿岸の魚類— VI. 神奈川県自然誌資料, 26: 79–84.
- Nakabo, T. 1982. Revision of genera of the dragonets (Pisces: Callionymidae). Publications of the Seto Marine Biological Laboratory, 27: 1–132.
- Nakabo, T. 1983. Revision of the dragonets (Pisces: Callionymidae) found in the waters of Japan. Publications of the Seto Marine Biological Laboratory, 27: 193–259.
- 中坊徹次・土居内 龍. 2013. ネズッポ科, pp. 1341–1346, 2106–2109. 中坊徹次 (編) 日本産魚類検索 全種の同定. 第3版. 東海大学出版会, 秦野.
- 緒方悠輝也・村瀬敦宣. 2019. 宮崎県延岡市から得られた標本に基づくネズッポ科魚類バケヌメリ *Eleutherochir mirabilis* の南限記録. 日本生物地理学会会報, 74: 65–69.
- 大河俊之・増井達洋・関 伸吾. 2014. 高知県の浅海砂浜域における小型底魚類の種組成と分布. 黒潮の資源海洋研究, 15: 95–104.
- 立原一憲. 2017. クシヒゲヌメリ, p. 247. 沖縄県環境部自然保護課 (編) 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版 (動物編) レッドデータおきなわ. 沖縄県環境部自然保護課, 那覇.
- 津野義大・岡村恭平・遠藤広光. 2023. 高知県から得られた四国初記録となるネズッポ科バケヌメリ. Ichthy Natural History of Fishes of Japan, 38: 1–3.
- 吉郷英範・太田 格・吉野哲夫. 2006. 日本初記録のネズッポ科魚類クシヒゲヌメリ (新称) *Eleutherochir mccaddeni*. 魚類学雑誌, 53: 189–193.